

平成31年度 学力向上指導改善プラン

三田市立上野台学校長 西村 篤巳

学校教育目標		夢や志をもち、心豊かでたくましく生き抜く生徒の育成				
推進主体		管理職と研究推進担当・生徒指導担当・教科代表により 学力向上推進委員会を設置				
学力に関する前年度の状況・経年の課題等						
学 力 の 状 況	全国学力・ 学習状況 調査結果 の状況 (国語・算 数・数学に 関する質 問紙調査 の結果も 含む)	国語	○A・B問題の平均正答率は、全国平均を上回っている。 ○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は 全国比+6.7ポイントだった。 ○B問題の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域 は全国比+12.7ポイントと高く、「書くこと」の領域も全国比 +5.6ポイントと高かった。 ◆領域別においてはA問題の「読むこと」が全国比-4.7ポイント で課題が見られた。			
		算数 数学	○A、B問題共に、全国平均を上回っている。とくに、A問題につい ては全国平均正答率を7ポイント上回り、4領域のすべてにおいて、 全国平均、兵庫県平均を上回っている。 ○「数学的な技能」については77.4%とおおむね理解できている ◆「知識・理解」は図形分野において全国平均を下回る問題 (図形の性質を問う問題)もある。 ◆「数学的な見方や考え方」については、ねばり強く取り組む生徒 と、無回答になる生徒との二極化がみられる。			
	定期テスト、単 元テストなど による状況(各 教科)	○学年が進むにつれて、テスト勉強に対する意識の高まりが みられる。 ◆効果的な学習方法を工夫することに課題がある。(経年) ◆家庭学習の習慣づけをどのように図るかについては、 継続した課題として取り組む。				
	授業等からうか がえる状況(各 教科)	○グループワークや話し合い活動に積極的に参加し、問題解 決を図ろうとする意欲は高い。 ○「ひょうごがんばりタイム」を活用した。放課後教室や質問 教室などへの参加が増加している。				
慣 学 ・ 力 生 活 上 習 に 係 る の 学 習 状 況	全国学力・学習 状況調査の質 問紙の状況	○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」については 、肯定的な回答が全国平均と比べて高い。 ◆「家で、学校の予習・復習をしていますか。」については、 肯定的な回答が全国平均と比べて低い。				
	学校評価などの アンケート調査 による児童・生 徒の状況	○授業のわかりやすさに関する肯定的評価が90%を超えて いる。 ◆家庭学習の習慣ができているに対する否定的評価が 多い。				
研 修 内 の 研 究 状 況	校内研究の状況	○授業力向上に関する教員の意欲の高まりがみられる。 ○達成目標を意識した指導案を作成し、授業実践及び研修を 進めることができた。上野台モデルでの指導案による研究 授業は4授業実践できた。				
	校内研修の状況	○大中学との連携による研修会を実施した。 ○幼少中で育てたい上野台の子ども『みんな育てよう』を 作成し、一つの方向性を示すことができた。				
家 庭 ・ 携 携 種 間 連 携	家庭・地域等の 状況	○学校だより、学年だよりを活用し、継続して家庭や地域 への啓発を行った。 ◆家庭学習の習慣については、課題がある。どのような家庭学 習がのぞましいか検討している。				
	小・中における 教科連携等の 状況	○小中で取り組むことができる学習習慣・学習規律について 協議する合同研修会を開催し、情報の共有化を図った。 ○小学校合同で、小学6年生対象の体験授業(英語)を 中学校にて行った。				
4月		成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具 体的な手立て等)	10～11月	2～3月	
学力向上に向けての重点的な目標		中間評価	年度末評価	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)		
①学力向上へ向けた授業改善の工夫 【どの生徒にとってもわかる授業の工夫に よる意欲の向上、家庭と連携した学習環境 づくり、分かりあう仲間・集団、学び方や学 びの質を伝える授業の工夫。学習への達 成感を意図した授業デザイン】		・講師を招いた授業 研究会を年間3回以 上開催する。 ・授業公開週間を 実施する。 ・教科横断的な授業 を実施する。	・学習意欲を高め、学ぶ姿 勢づくり。授業規律や学習 規律の徹底と学習形態の 工夫を行う。 ・学習意欲を高め、家庭学 習習慣づくりのために学校 として具体的な行動・活動 を行う。 ・「分かりやすく主体的に学 ぶ授業改善を行い、「楽し い」「できた」「やった」と感 じる授業を行う。」	○講師を招いた授業研究会を7月に実施。12月、3学期 にも実施予定である。 ○校内授業公開週間を実施中である。あわせて全領域 において公開し、相互が高めあう機会にしている。 ◆学力学習状況調査の結果より「学校の授業以外での 学習時間が短い」という結果がでているため、啓発や 「ひょうごがんばりタイム」への参加の呼びかけなどをさら に行っていく。		
②人権教育の推進 【自分や他人を大切に、共に生きる生徒 の育成(徳・豊かな心)(目指す生徒像より) 社会や組織の一員としての役割を自覚し、 保護者や地域社会と繋がりながら協力して 物事を推進していく教師(目指す教師像よ り)】		・PTAと共に、全校生 徒を対象に人権講演 会を実施する。 ・教員対象に人権教 育研修会を実施す る。 ・小学校ブロック別 人権研修会に中学 校担当者が参加す る。 ・同和教育を要とし た研修の実施。	・校内道徳人権教育推進委 員会を通し、情報交換を行 いながら系統だった特別の 教科 道徳を行う。 ・校区内小学校とも連携し、 小学校ブロック別人権研修 会に中学校担当者が参加 し、研修・研鑽に努め、全教 職員で情報共有する。 ・地域の実態や実践から差 別を許さない、差別を見抜く 生徒の育成の研修を積み 重ねる。	○11月にPTAと共催で人権講演会を実施予定。 ○7月に教員対象の人権教育研修会を実施。 ○小学校ブロック別人権研修会に中学校担当者が参 加。		
③特別支援教育の充実 【どの子にとっても分かる授業や達成感 を感じる活動の工夫と充実。「チャレンジ」/「 ステップ」学級の充実と支援の工夫。支援を 必要とする生徒の理解と支援の工夫。】		・巡回相談、教育相 談を学期に1回以上 実施する。	・巡回相談・教育相談を活 用し、支援を必要とする生 徒個々の理解と支援に丁寧 に対応する。	○1学期、2学期にそれぞれ巡回相談や教育相談を実施 した。 ○7月に実施した上野台中学校区幼小中学校教職員合 同研修会で、「特別支援」分科会を設け、幼小中で交 流を行った。		
④不登校生への支援の充実 【生徒の居場所づくりや専門家・関係機関と の連携】		・専門家や関連機 関、スクールソ シアルワーカーやス クールカウンセラー を活用した取り組み	・スクールカウンセラー等 を活用した研修会を実施す る。 ・教育相談や家庭訪問を行 い生徒の実態把握を行う。	○スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、 こどもサポーターを活用し、個々の生徒とのかかわりを深 めている。また、必要に応じて関係機関との連携も行って いる。 ○7月に、各学年でスクールカウンセラーによる「人ととのコ ミュニケーションの取り方」等の授業を行った。		
⑤学校園所との連携の推進 【生徒の成長を「線」で捉え、子どもを中 心に据えた、生徒が安心して学べる学習習慣 作り・学校づくり。家庭での学習習慣作り】		・上野台中学校区幼 小中全教職員対象 合同研修会を実施 する。	・学習規律、授業規律、生 徒指導、特別支援教育、保 健指導で幼小中連携の充 実する。 ・『みんな育てよう』の実 践を行う。	○7月31日に上野台中学校区幼小中学校園教職員合同 研修会を実施した。 ○各幼小中学校園の研究授業等に中学校教員が参加し、 交流を深めた。 ○『みんな育てよう』を各校園で配布し実践を進めた。		
⑥地域との連携の推進 三田型コミュニティー スクールの実施によ り、家庭・地域との連携のさらなる充実 【生徒の地域貢献活動・体験活動を工夫 し、学校・家庭・地域がつながるより良い教 育環境づくり。多様な地域や外部の教育力 の活用】		・地域の教育力の活 用をより一層進め、 生徒の地域貢献活 動や生徒会・部活動 等でのボランティア 活動を進める。	・地域や保護者のボラン ティアでの協力を進め、地 域のまつりや地域の奉仕活 動等に中学生がボラン ティアで参加できるように地域 や家庭と協力して取り組 む。	○夏休休業中の各小学校区やわくわく村の夏祭りに歌 奏楽部や生徒会役員、生徒ボランティアが参加した。 ○「駄プロジェクト」のフジバカマの苗木を祭り等で配布 した。秋にはアサキマダラが各地で訪れた報告があった。 ○学校での教育活動に地域や保護者が生徒への指導や ボランティアで関わった。		